

焼きの技術を伝習したのはこうした時期であった。

まもなく村中が他村の小作をするかたわら炭焼きをするようになった。この地方の俗謡に“惣吉弟でこいつも炭たき ブウス ブウス”というのや“一生後家でも金山者はいやだ 何の罰やら色黒だ”“嫁に行くなら金山行くな 末にゃ炭負うて町通い”というのがある。

やがて 爪に灯をともしような暮しの中で せっせと小金を貯めた村人は しだいに金山笹川に近い他村の小

作田地を買い集めて 百姓への転身に活路を求めたのである。明治5年に金掘りを廃業した金山笹川の村がはっきりと百姓の村に姿を変えたのは 明治の30年も末の頃であるという。

文 献

本間周敬 西三川村誌 昭和23年12月
真野町教育委員会 真野町史上巻 昭和51年10月
県立佐渡高等学校同窓会 佐渡国略記 昭和61年10月

最近中国で発見された新鉱床 No. 9

岸 本 文 男 (地質相談所)

XXXXII 湖北省随州県で一大型重晶石鉱床を確認

湖北省地質鉱産局第8地質大隊は9年間の辛苦を経て湖北省随州県において一つの大型重晶石鉱床を発見・確認した。その鉱量は1,191万t 鉱石の平均BaSO₄含有率は85%を越え 鉱床はカンブリア系下部統最下部の含炭珪質岩系中において その生成タイプは堆積変成一層状鉱床に属している。

呉雪 琮 (中国地質報 1987.8.28)

XXXXIII チベットでベントナイト鉱床を発見

チベット自治区地質鉱産局地熱大隊第3分隊は 当雄県の羊応郷地熱田の熱水変質帯で11点の粘土試料を採取し 地質鉱産部成都地質鉱産研究所X線分光分析研究室に鑑定を依頼し その結果 同試料がいずれもモンモリロナイトの含有率が高く ベントナイト鉱であると決定された。

今までのところはベントナイト鉱の発見はチベットとしては初めてのことである。よく似た変質帯はこの地熱区の処々に存在している。上記地熱大隊と成都地質鉱産研究所はさらに共同研究を進め、そのベントナイト鉱の稼行価値を明らかにすることとなった。

張登全 葛偉芝 (中国地質報 1988.1.1)

XLV 山東省東部で大型滑石鉱床

最近 山東省地質鉱産局第3地質隊は山東省東部に於いて 大型滑石鉱床を探索・確認した。同鉱床は掖県

にあって 鉱石の品位が高く 白度が優れ 国内の製紙 紡績 ゴム 陶磁器 塗料などの工業に供することができ また輸出も可能で 一部の鉱石は彫刻や細工物に使用できる。

吉孟瑞 黄建華 (中国地質報 1987.6.26)

XXXXVIII 福建省で大型ウラン鉱床を発見

最近 核工業部の華南地質勘探局の294大隊が福建省北部山岳部の浦城県域内で一つの大型ウラン鉱床を探索 試錐で発見した。これは 福建省で現在発見されている中では初めての大型ウラン鉱床である。

楊鴻 鄭耀銳 (中国地質報 1987.3.20)

XXXXIX 四川省孔隆溝でまた巨大な砂金

7月27日 四川省白玉県孔隆溝で砂金掘り中の群衆が4,719g(9斤4両)の大きな自然金を採取した。これは昨年8斤4両の砂金の採取に続くもので この地でまた特大の自然金が採取されたというわけである。

この孔隆溝の延長約1.5km 幅約300mのそれほど大きくもない高原の谷間からしきりと大きな自然金が掘り出される。去年だけでも1斤から8斤4両までの重さの自然金が11個発見されたのである。今年になってからも 白玉県の砂金採掘は急速に発展しつつあり 6月分だけで国に収めた金の量は去年の総産金量の1/2に近い。

劉経世 (中国地質報 1986.8.8)